



伊平屋村【沖縄県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成29年3月 ■ 人口：1,256人 ■ 面積：23km²
■ 担当課：伊平屋村教育委員会教育課（平成30年3月現在）



伊平屋村は伊平屋島と野甫島からなる鹿児島県との境の東シナ海に浮かぶ村である。歴史文化基本構想の前年に実施した文化財悉皆調査の結果を踏まえ、村を5つのエリアに分け、活用地域とし、そのテーマと文化財の分布を示し関連遺産群とした。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

島の成り立ち（ジオ）、古歌に詠われる原風景、
琉球国成立とのつながり、漁労文化、まつりと祈り

課題

- ・ 本村住民への歴史文化基本構想の周知
- ・ グスク関連遺跡調査の実施

保存活用方針

- ・ ガイドブックの作成による普及啓発
- ・ 指定による文化財の保護

保存活用のための取り組み

ジオガイドの作成

伊平屋島の北部地域は島の成り立ちや特徴を端的に現す自然資源が豊富にある。この地域を中心としたジオガイドを作成し、地元小中学校の理科のフィールドワークで利用できるガイドブックの作成をする。観光協会等にはデータによるガイドブック配布を行う。



島の山頂にあるグスクの継続調査

歴史文化基本構想策定における調査により所在が確認された、賀陽グスク（仮称）と腰岳グスク（仮称）の継続調査を行う。



石切場の利用の聞き取り調査

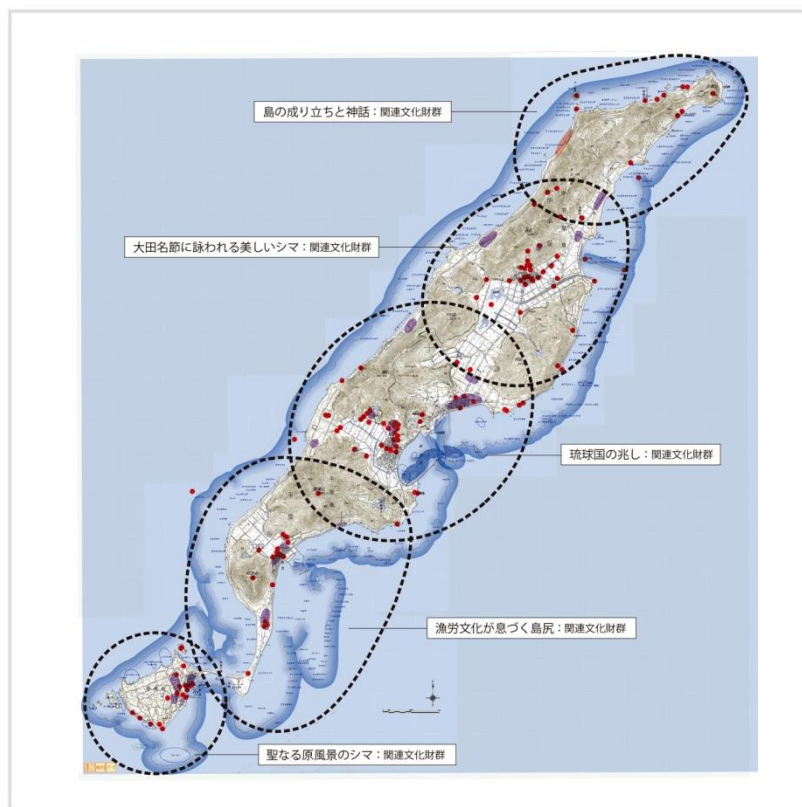
村の南側にある野甫島（野甫集落）は1島、1集落、1小中学校で構成される独立性の高い琉球石灰岩の島である。既往の記録資料が少なく、集落の原風景を形成している琉球石灰岩の屋敷囲いの供給方法が不明であるため、石切場の利用について住民への聞き取り調査を行う。その際に島内小中学生の聞き取り調査への参加を検討する。

住民向けに文化財紹介文章を定期発行する

本村在住の全世帯に配布される「広報いへや」に文化財を紹介するコラムを連載する。指定・未指定にかかわらず住民関心の高いグスク関連の文化財や集落内に身近に存在するものを取り上げる。



関連文化財群



以下の3つの事象に注目し、左図に示すように5つの関連文化財群の特徴を現すストーリーを作成した。

- ①伊平屋島と野甫島の地形・地質を含めた自然環境と地域に伝わる神話。
- ②第一尚氏（琉球国王）の祖、屋敷大主に関連する伝承とグスク。
- ③現在でも続く神事とムラごとの祭り。

ストーリー

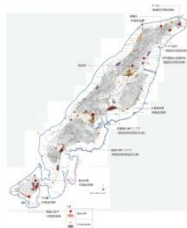
- ①島の成り立ちと神話
- ②大田名節に詠われる美しいシマ(集落)
- ③琉球国の兆し
- ④漁労文化の息づく島尻
- ⑤聖なる原風景のシマ(集落)

策定後の成果（見込まれる効果）

① **他事業との連携と文化資源保全**
観光事業者による自然観光ツアー等において文化資源の情報提供や文化資源保全のための参加者数の調整などの連携が図れる。本村は山中に在する石積み遺構に近接して遊歩道が設置されており、山中を走るヴィレッジトレイル開催時にはコース案内の設置等で文化財の破損が起きないようにコース担当者との調整・情報共有が出来た。



② **文化財に関するマスタープラン**
歴史文化基本構想がマスタープランとして機能することを期待している。5つの関連文化財群ごとの保存活用方針としてストーリーを設定し、それに沿ったかたちで文化財の指定・保存活用を進めることで各地区の特徴を打ち出せる事を期待している。



③ **歴史民俗資料館での活用**
伊平屋村の歴史民俗資料館と歴史文化保存活用区域の連携を強め、相互の情報ネットワーク形成を図る。ストーリーを展示構成へ反映させることで、今まで展示する文脈が無かった収蔵物を展示することができ、展示の定期的な入れ替えも可能になる。

